



新潟市立江南小学校

令和7年7月2日

考える部便り No.10



ご感想・研修へのご意見
お待ちしております。←

形成的評価から総括的評価へ

これまでロイロノートのカードの色を使った振り返りを紹介しました。それが形成的評価にもつながることもお伝えしました。今回は単元テストなので、総括的評価です。この単元テストを活用し、子ども自らが学習状況を把握し、自らの学習を調整しながら、学ぼうとしているかどうかを評価する実践の提案です。単元終了後、学習者と授業者が一对一で相談する時間を設けました。その教育相談の資料としてロイロノートのアンケートを使い、子どもたちにテストの自信度とよく使った学習ツールを尋ねました。具体的な質問内容は下記の通りです。

Q1 今週のテスト「正多角形と円」を受けたときの感想を選んでください。*

☐ 自信をもって答えを書けた

☐ あまり自信をもって答えを書けなかった

☐ 全く自信をもてずに答えを書けた

☐ その他

Q2 1でそう答えた理由を書いてください。*

Q3 「正多角形と円」の学習をしたとき、どれをよく使いましたか。（複数選択）

☐ 計算ドリル

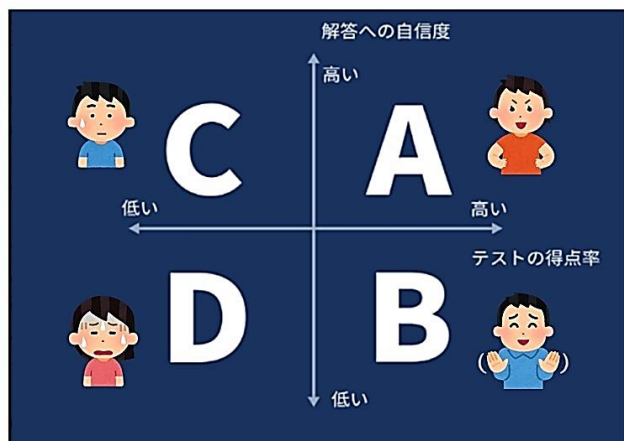
☐ ドリルパーク

☐ キュビナ

☐ その他

Q4 それはこの単元に合った学習方法でしたか。理由を教えてください。*

このアンケートとテストの点数、ドリルパークの履歴、授業の自信度や理解度を基に、自分に合った学び方だったのか学習者と考えました。読書やドリル学習の時間に個人で話しました。話し合うときに、「自信度と得点率の4象限マトリクス」を活用すると、よかったです。Aの子



は、自信もあり、テストの結果もよいので、この調子で頑張れるように話したいです。Bの子は、自信度は低いですが、テストの結果はよいです。具体的によかったことを伝え、自信を付けさせたいです。Cの子は、自信はあっても、テストの結果がよくないです。どのような間違いをしているか一緒に考えたいです。Dの子は、自信もなく、結果もでていないです。どうやったら、よい結果になるか、学習計画も含めて考え、しばらくサポートしていきたいです。このように、学習者と一緒に分析することで、学習者自身が学び方の大切さや復習の必要性に気付く過程を大事にしたいです。分析を授業者がリードするのではなく、学習者が分析をすることを伴走し、いずれは子どもだけで分析できるように育みたいのです。

このように、学習者と一緒に分析することで、学習者自身が学び方の大切さや復習の必要性に気付く過程を大事にしたいです。分析を授業者がリードするのではなく、学習者が分析をすることを伴走し、いずれは子どもだけで分析できるように育みたいのです。

（文責：植田一宏）